

平成 30 年度

全国学力・学習状況調査結果について

—川崎市の児童生徒の学習・生活の状況—

平成 30 年度 全国学力・学習状況調査結果について

－ 川崎市の児童生徒の学習・生活の状況 －

○調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

○調査の実施状況 ※調査の種類により調査人数は若干変動

小学校 113 校 中学校 52 校 特別支援学校 1 校 (小学部・中学部)

小学校 第 6 学年 約 11,560 名 中学校 第 3 学年 約 9,080 名

○児童生徒に対する調査

〈教科に関する調査〉

小学校調査 - 国語・算数・理科 中学校調査 - 国語・数学・理科

主として「知識」に関する問題

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

主として「活用」に関する問題

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

〈質問紙調査〉

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

1 教科に関する調査の平均正答数(問)と平均正答率(%)

平成 30年度	小学校調査									
	国語				算数				理科	
	A(12問)		B(8問)		A(14問)		B(10問)		(16問)	
	正答数(問)	正答率(%)	正答数(問)	正答率(%)	正答数(問)	正答率(%)	正答数(問)	正答率(%)	正答数(問)	正答率(%)
川崎市	8.6	72	4.5	57	9.2	66	5.5	55	9.7	61
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60
差	0.1	1	0.1	2	0.3	2	0.4	3	0.1	1

平成 30年度	中学校調査									
	国語				数学				理科	
	A(32問)		B(9問)		A(36問)		B(14問)		(27問)	
	正答数(問)	正答率(%)	正答数(問)	正答率(%)	正答数(問)	正答率(%)	正答数(問)	正答率(%)	正答数(問)	正答率(%)
川崎市	24.6	77	5.6	63	23.8	66	6.8	49	17.9	66
全国	24.3	76	5.5	61	23.8	66	6.6	47	17.9	66
差	0.3	1	0.1	2	0	0	0.2	2	0	0

A：主として「知識」 B：主として「活用」 理科：「知識」「活用」

① 教科に関する調査

「教科に関する調査」の校種、教科ごとの概要は以下に示す通りである。

全体の傾向については、領域、設問ごとに川崎市の正答率と全国とを比較して、「△」「▼」印を付けている。（△＝上回った設問 ▼＝下回った設問）

結果の概要については、領域ごとに個々の設問について特徴的なものを取り上げて、「◇」「◆」印を付けている。（◇：よい状況と考えられる問題 ◆：課題があると考えられる問題）

問題については、A・Bで表記している。（A…A問題、B…B問題）

小学校 国語

○調査問題の趣旨・内容

国語A－基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

(例) ■ 相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話す。

- 自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考える。
- 登場人物の心情について、情景描写を基に捉える。
- 文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く。
- 相手や場面に応じて適切に敬語を使う。

国語B－基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

(例) ■ 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる。

- 目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く。
- 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかく。

○全体の傾向

・領域等ごとの傾向

領域等ごとの平均正答率は、話すこと・聞くことではA92%、B68%、書くことではA75%、B47%、読むことではA76%、B52%、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ではA68%である。全ての領域において全国を上回った。いずれも全国との差は±5ポイントの範囲内である。

・設問ごとの傾向

Aでは全12問中9問で全国を上回り、Bでは8問中6問で全国を上回った。全国との差が5ポイント以上である設問は以下の通りである。

△B3－ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む(54%、+5)

○領域等ごとの結果の概要

話すこと・聞くこと

- ◇A1 図書館への行き方を説明する場面での説明の仕方を選ぶ設問において、相手や目的に応じ、目印等の必要な事柄を挙げながら筋道を立てて話すことについては、相当数の児童ができています。(92%)
- ◇B1二 話し合いにおける司会の言葉の意図を選ぶ設問において、司会の役割を捉えることについては、相当数の児童ができています。(81%)
- ◆B1三 話し合いを踏まえ、他者の意見を取り上げながら自分の考えをまとめる設問において、他者の意見を自分の意見と比べるなどし、話し合いの展開に即して考えをまとめながら聞くことについては、課題がある。(36%)

書くこと

- ◆B1三 話し合いを踏まえ、他者の意見を取り上げながら自分の考えを書く設問において、他者

の意見を自分の意見と比べるなどし、条件に即して考えを書くことについては、課題がある。(36%)

- ◆ B 2 二 「かみかみあえ」について、保健室の先生の話からわかったことを取り入れて詳しく書く設問において、目的や意図に応じて必要な事柄を取り上げ、内容の中心を明確にして詳しく書くことについては、課題がある。(13%)

読むこと

- ◆ B 3 一 どのようなことが知りたくて【自伝「旅人」の一部】を読んだのか、その説明として適切なものを選ぶ設問において、目的に応じて複数の本や文章などを選んで読むことについては、課題がある。(54%)
- ◆ B 3 二 伝記の一部を読んだ生徒が、最も心がひかれた一文とその理由を文章としてまとめる設問において、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことに課題がある。(50%)

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ◇ A 8 漢字を文の中で使う設問において、同じ漢字を使った文を正しく選ぶことについては、相当数の児童ができている。
イ 必要なせつ備がある。(新しい規則をもうける。)(81%)
ウ 何度もしょう毒する。(ノートの字をけす。)(81%)
- ◆ A 5 文章中にある、つながりが合っていない文を選択し、正しく書き直す設問において、文における主語と述語との関係に注意して、正しく書くことに課題がある。(40%)

○授業改善に向けて

話すこと・聞くこと ○意図を捉え、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる指導の充実

相手と自分の意見を比べて考えを述べるためには、共通点や相違点などを具体的に示しながらまとめて話すことが必要となる。そのため、話し手の考えや意図、自分との共通点や相違点を意識して聞くことができるような課題の設定を工夫することが大切である。また、話合いの学習場面においては、話し手と聞き手が共に自分の考えをもって話合いに臨むことができるような指導も必要である。

書くこと ○目的や意図に応じて、必要な事柄を捉え、条件に即して書く指導の充実

自分の考えを述べる際、読み手に伝わるような文章を書くためには、目的を明確にし、そのために必要な事柄を過不足なく取り上げて書くことが必要である。目的に応じて、話合いや取材などから得られた情報を関連付けたり比べたりしてまとめる活動や、目的や意図を踏まえ、条件に即して書く活動等を通して、必要な内容を捉え、適切に伝えることができるよう指導することが大切である。

読むこと ○目的に応じて、複数の本や文章を選んで読む指導の充実

目的に応じて、複数の本や文章を読み重ねたり、読み比べたりするなど、効果的な読み方を選択して活用することは重要である。例えば同じ人物の伝記であっても複数の本を選んで読むことで、その生き方や人生などをより深く知ることができたり、同じ本の中でも、事実の記述や説明の表現が複数用いられていたりすることがあるので、それらを結び付けながら読むような指導が大切である。また、その目的に応じ、自分の考えを明確にしながら読むことも大切である。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

○文中における主語と述語との関係などに注意して、文を書いたり読んだりする指導の充実

主語と述語は、文の骨格をなすものである。そのため、文章を理解したり表現したりするときには、主語と述語との照応関係が大切であることを意識できるように指導することが必要である。また、子どもたちが自ら主語と述語が照応していないことに気付き、正しく書く必要性を実感できるよう、目的や相手を明確にして紹介、説明等の実用的な文章を書く学習や、様々な文章を読む学習を通して、継続的に指導していくことが重要である。

○調査問題の趣旨・内容

算数A－基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

- (例) ■ 3桁の整数どうしの大きさを比べ、十の位に入る適切な数字を書く。
 ■ 二つのシートの混み具合を比べる式の意味について、正しいものを選ぶ。
 ■ 示された表現方法を基に、空間の中にあるものの位置を正しく書く。
 ■ 示された事柄が両方当てはまるグラフを選ぶ。

算数B－基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

- (例) ■ 示された考え方を解釈し、50秒、60秒の場合に適用して、その結果を表に整理することで、条件に合う時間を判断する。
 ■ 折り紙の枚数が足りる理由を、示された数量を関連付け、根拠を明確にして記述する。
 ■ 図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさが 360° になっていることを記述する。
 ■ メモと情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述する。

○全体の傾向

・領域ごとの傾向

領域ごとの平均正答率は、数と計算ではA66%、B62%、量と測定ではA72%、B57%、図形ではA60%、B63%、数量関係ではA63%、B50%である。量と測定のAにおいて全国を下回り、他は全国を上回った。いずれも全国との差は±5ポイントの範囲内である。

・設問ごとの傾向

Aでは全14問中8問で全国を上回り、Bでは全10問中10問で全国を上回った。全国との差が5ポイント以上である主な設問は以下の通りである。

- △A 1 (1) 針金0.2mの重さと針金0.1mの重さを書く(70%、+7)
 △A 1 (2) 針金0.4mと0.4mの重さ60gと1mの重さが、それぞれ数直線のどこに当てはまるのかを選ぶ(73%、+6)
 △A 7 (1) 円周率を求める式として正しいものを選ぶ(50%、+8)
 △B 2 (2) 1回の玉入れゲームの時間を3分に最も近い時間にするための玉の投げる時間を、表に整理して求める(53%、+5)
 △B 3 (2) 一つの事柄について表した棒グラフと帯グラフから読み取ることができることをまとめた文章に当てはまるものを選ぶ(30%、+6)

○領域ごとの結果の概要

数と計算

- ◆A 2 答えが $12 \div 0.8$ の式で求められる問題を選ぶ設問において、小数の除法の意味を理解することについては、課題がある。(41%)
- ◆B 5 (1) 横の長さが7mの黒板に輪かざりをつけるために必要な折り紙の枚数が、100枚あれば足りるわけを書く設問において、示された数量を関連付けて根拠を明確にして記述することについては、課題がある。(48%)

量と測定

- ◇A 4 (1) 面積がそろっている二つのシートの混み具合について正しいものを選ぶ設問において、一方の量がそろっているときの比べ方を理解することは、相当数の児童ができている。(88%)
- ◆A 4 (2) 面積と人数がそろっていない二つのシートの混み具合を比べる式の意味について正しいものを選ぶ設問において、単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解することについては、課題がある。(50%)

図 形

- ◆ A 7 (1) 円周率を求める式として正しいものを選ぶ設問において、円周率の意味を理解することについては、課題がある。(50%)
- ◆ A 7 (2) 直径の長さが2倍になったとき、円周の長さが何倍になるのかを選ぶ設問において、直径の長さと円周の長さの関係を理解することについては、課題がある。(57%)

数量関係

- ◆ B 3 (1) メモの内容がグラフのどのようなことに着目して書かれているかを書く設問において、メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述することについては、課題がある。(25%)
- ◆ B 3 (2) 棒グラフと帯グラフから読み取ることができることをまとめた文章に当てはまるものを選ぶ設問において、棒グラフと帯グラフから読み取ることが適切に判断することについては、課題がある。(30%)

○授業改善に向けて

数と計算

○日常生活の問題の解決のために、複数の情報を関連付けて論理的に考察し、数学的に表現したり、条件に合う事柄について、適切に判断したりする指導の充実

日常生活の問題の解決のために、複数の情報を関連付けて論理的に考察し説明できることが重要である。また、事象から規則性を見だし、変化や対応の関係を基に、合理的、能率的に処理することも重要である。そのためには、日常生活の中で生じた問題解決のために、数量の大きさを実測し関連付けて論理的に考察したり、また、ある数量を調べようとするときそれと関係ある数量を自ら見だし、それらの数量の関係を解釈したり、問題の解決に活用したりすることが大切である。

量と測定

○単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解できるようにする指導の充実

異種の二つの量の割合として捉えられる数量について、一方の量をそろえたとほかの量で大小を比べることができることを実感的に理解できるようにすることが重要である。また、二つの数量のどちらを単位量として設定しているかによって数値の比較の仕方が異なることを理解し、目的に応じて適切に処理することができるようにすることも大切である。

図 形

○円周率の意味や直径の長さと円周の長さの関係について理解できるようにする指導の充実

直径と円周率の関係を調べる学習では、どのような大きさの円についても、円周の直径に対する割合(円周率)が一定であることを帰納的に考え、見いだすことが重要である。その際、実際のいくつかの円について、直径の長さと円周の長さを測定する活動などが大切である。さらに、円周率の意味を基に、円周の長さが直径に比例することなど、直径、円周、円周率の関係について理解できるようにすることも重要である。

数量関係

○日常生活の事象をグラフの特徴を基に、複数の観点で考察したり表現したりする指導の充実

資料を分類整理する学習では、目的をもち、必要な情報とその収集方法を考え、収集した情報を基に自ら結論をまとめ、数学的に表現することが重要である。そのためには、日常生活の中で主体的に問題を見いだして情報を収集し、表やグラフなどに整理して考察し表現したり、考察した結果から新たな問題を見だし、さらに情報を収集し表やグラフなどに整理し直して考察したりすることが大切である。

○調査問題の趣旨・内容

基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

(例) ■ 骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解する。

■ 堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解する。

■ ろ過の適切な操作方法を身に付ける。

基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

(例) ■ 人の腕が曲がる仕組みを模型に適用する。

■ より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述する。

■ 土地の侵食について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想する。

■ 実験結果から電流の流れ方について、より妥当な考えに改善する。

○全体の傾向

・領域ごとの傾向

領域ごとの平均正答率は、物質では 60%、エネルギーでは 55%、生命では 73%、地球では 51%である。生命において全国を下回り、他は全国を上回った。いずれも全国との差は±5ポイントの範囲内である。

・設問ごとの傾向

「知識」に関する問題では全3問中2問で全国を下回り、「活用」に関する問題では全13問中10問で全国を上回った。全国との差が5ポイント以上である設問は以下の通りである。

▼1(3) 腕を曲げることでできる骨と骨のつなぎ目を表す言葉「関節」を書く(74%、-5)

○領域ごとの結果の概要

物 質

◇4(2) 2つの異なる実験方法から得られた実験結果を分析して考察し、海水と水道水を区別することは、相当数の児童ができています。(91%)

◆4(3) 物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを、食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用することに課題がある。(40%)

◆4(4) 食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、記述することに課題がある。(38%)

エネルギー (※3(4)は地球との複合問題)

◆3(2) 回路を流れる電流の流れ方について、自分の考えと異なる他者の予想が確かめられた場合の結果の見通しに課題がある。(51%)

◆3(4) 太陽の1日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係の知識を活用して、目的に合ったものづくりに適用することに課題がある。(44%)

生 命

◇1(2) 資料にある鳥の翼と人の腕のつくりを比較して書かれたまとめを読み、どのような視点を基にまとめた内容なのかを選ぶことは、相当数の児童ができています。(80%)

◆1(4) 人の腕が曲がる仕組みを示された模型に適用し、それを説明する内容を選ぶことに課題がある。(55%)

地 球

- ◆ 2 (3) 流れる水の働きを調べた実験結果を基に、一度に流す水の量と立てた棒の様子との関係について分析して考察し、より妥当な考えとして記述することに課題がある。(23%)

○授業改善に向けて

物 質

○実験結果を基に分析し、問題に正対したまとめに改善できるようにする指導の充実

実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述できるようにするには、観察、実験などで得られた結果を根拠とした考察を行い、実験結果から言えることだけに言及した内容かどうかについて検討することが重要である。そのためには、実験結果を整理して結論をまとめる際に、結果を事実としての確に捉え、事実から解釈したことを「実験の結果から言えること」として言及することができるように指導することが大切である。また、より妥当な考えに改善していくためには、問題解決の様々な場面で、自分の考えを表現したり、見直したりするなどの話合いができるように指導することも大切である。

エネルギー

○実験結果の見通しを伴った解決の方向性を構想できるようにする指導の充実

電流の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できるようにするには、自らの予想や仮説を基に実験計画を立案し、実験を行う前に、予想が確かめられた場合に得られる実験結果を見通すことが重要である。そのためには、これまでの学習内容や生活経験と関係付けて根拠のある予想や仮説を発想し、図などで表現するなどをして話し合うことができるように指導することが大切である。また、自分の予想だけでなく他者の予想が確かめられた場合に得られる結果の見通しを話し合うことができるように指導することも大切である。

生 命

○学習を通して獲得した知識を実際の自然や日常生活に適用できるようにする指導の充実

人の腕が曲がる仕組みを模型に適用できるようにするには、主体的な問題解決を通して獲得した知識を日常生活と関係付けて考え、図や模型を用いて説明できることが重要である。そのためには、例えば、人がどのように体を動かしているのかを表現する手段として、実際に腕が曲がる仕組みを筋肉の様子と関係付けて考え、身近なものを使った模型を用いて説明することができるように指導することが大切である。

地 球

○実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できるようにする指導の充実

より妥当な考えをつくり出すために、観察、実験などで得られた結果を基に分析して考察し、その内容を記述できるようにするには、得られた結果を基に「事実」と「解釈」の両方を示しながら説明できることが重要である。そのためには、観察、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述する際に、自分の予想にとらわれずに事実と解釈の両方を表現することができるように指導することが大切である。また、記述する際には、事実を的確に表現することができるように指導することも大切である。

○調査問題の趣旨・内容

国語A－基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

- (例) ■スピーチの感想に対して先生が述べた言葉として適切なものを選択する。
■図書だよりの下書きの構成を説明したものとして適切なものを選択する。
■「それは掛け値のない、二秒の間のできごとである」を説明したものとして適切なものを選択する。
■『韓非子』の中の語句の訳を抜き出す。

国語B－基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

- (例) ■「天地無用」という言葉を誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書く。
■二人に続いてする質問を書く。
■話のあらすじを学級の友達にどのように説明するかを書く。

○全体の傾向

・領域等ごとの傾向

領域等ごとの平均正答率は、話すこと・聞くことではA77%、B77%、書くことではA75%、B34%、読むことではA79%、B56%、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ではA77%、B52%である。伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項のAと、話すこと・聞くことのBにおいて全国と同じ平均正答率であり、他は全国を上回った。いずれも全国との差は±5ポイントの範囲内である。

・設問ごとの傾向

Aでは全32問中21問で全国を上回り、Bでは全9問中7問で全国を上回った。全国との差が5ポイント以上あった設問は以下の通りである。

- ▼A8－2 漢字を書く 舞台のマクが上がる(67%、－6)

○領域等ごとの結果の概要

話すこと・聞くこと

- ◇B2二 他者の質問に続いて聞く際の質問事項を書く設問において、先に質問した二人に続く適切な質問をすることについては、相当数の生徒ができています。(89%)
◆B2三 設定された場面で発表をまとめる際の話の進め方を選ぶ設問において、何を踏まえ、どのような情報を用いて話すのがよいかを理解して話すことについては、課題がある。(55%)

書くこと

- ◇A2一 図書だよりの下書きの構成を適切に説明したものを問う設問において、書こうとする事柄のまとまりや順序を考えて文章を構成することについては、相当数の生徒ができています。(90%)
◇A4二 段落の内容を入れ替えて書き直すことの意味を選ぶ設問において、段落相互の関係に注意し、読みやすくわかりやすい文章にすることについては、相当数の生徒ができています。(81%)
◆B1三 説明的な文章を読み、「天地無用」という言葉を誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書く設問において、目的に応じて読んだ内容を整理して書くことについては、課題がある。(16%)

読むこと

- ◇A3二 文学的文章における登場人物の言動についての適切な説明を選ぶ設問において、場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解することについては、相当数の

生徒ができています。(84%)

- ◆B 1 三 説明的な文章を読み、「天地無用」という言葉を誤った意味で解釈してしまう人がいる理由をまとめる設問において、目的に応じて必要な内容を読み取り、まとめていくことについては、課題がある。(16%)

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ◇A 7 一 場面に当てはまる語句として適切なものを選ぶ設問において、辞書的な意味を踏まえて文脈上の意味を捉えることについては、相当数の生徒ができています。(89%)
- ◆A 8 四 2 「心を打たれた」を文末に用いた一文を、主語を明らかにし、「誰(何)」の「どのようなこと」に「心を打たれた」のかがわかるように書く設問において、目的に応じて適切な文を書くことについては、課題がある。(25%)

○授業改善に向けて

話すこと・聞くこと

○目的や場面に応じて的確に話すための指導の工夫

目的や場面に応じて的確に話す力を身に付けるためには、話し手がある程度まとまった話をして質疑応答や意見交換をする活動や、互いの思いや考えなどを深めたり広げたりしていく対話などの活動を意図的、計画的に位置づける必要がある。伝える際には、伝えたいことを明確にし、それを分かりやすく伝えるために各部分で何を取り上げ、どのように組み立てるかを考えて話すように指導することが必要である。また、聞き手としての活動において、相手の言いたいことを確かめたり、足りない情報を聞き出したりして気付いたことなどを、自分がより適切に話すことへ結び付けられる力を身に付けていくことができるような指導の工夫も大切である。

書くこと

○目的に応じて伝えたい内容を明確にし、整理して書く指導の充実

読んだ内容や聞いたことをまとめて書くためには、伝えるべき事柄が何なのかをしっかりと捉え、それを整理したり順序立てたりして書くような活動を意図的に位置付けていく必要がある。また、実生活において、物事を説明したり紹介したりするような場面では、書く用紙の大きさや文字の量など、一定の条件の下で書くことが求められることが多い。そのため、書く際に条件となることをよく理解し、それに即した形式で過不足なく書く力を身に付けていくことができるような指導の工夫も大切である。

読むこと

○目的に応じて読み、内容を的確に捉える指導の工夫

文章を読み、内容を的確に捉える力を身に付けるために、目的や意図に応じて、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けて内容を把握するように指導する必要がある。その際、部分ごとに内容を捉えたり、部分と部分との相互関係を正しく押さえたりしながら、更に大きなまとまりごとに文章全体における役割を捉えるように指導することが大切である。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

○語彙を豊かにする指導の充実と文の成分の順序や照応に注意して表現する指導の工夫

語彙を豊かにする学習においては、意味を理解している語句を増やすだけでなく、実際の場面で使用することができるように指導することが引き続き必要である。また、実際に表現する場面では、文の成分の順序や主語と述語の照応などを整え、伝えたいことが相手に適切に伝わるようになってきているかを常に吟味するように指導することが大切である。例えば、文や文章を書いた後に、伝えたいことを適切に表現するための語順や照応について検討するなどの学習活動も考えられる。

○調査問題の趣旨・内容

数学A－基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

- (例) ■ 絶対値が表す数を求める。文字式の計算をする。目的に応じて式を変形する。
連立二元一次方程式を解く。
- 回転移動した図形をかく。2つの三角形が合同であるための条件について、正しい記述を選ぶ。
 - 反比例のグラフから表を選ぶ。一次関数について x の値の増加に伴う y の増加量を求める。
 - 与えられた記録から中央値を求める。確率について、正しい記述を選ぶ。

数学B－基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

- (例) ■ 回答用紙によるくじ引きを行う際の事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する。
- 3つの計算の順番にしたがって求めた数について、予想した事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明する。
 - 与えられたグラフをもとに、ある地点での列車アが通ってから列車エが通るまでの間の時間を求める方法を説明する。
 - 条件を「平行四辺形 $ABCD$ 」から「正方形 $ABCD$ 」に変えて考え、新たな事柄を見いだして説明する。

○全体の傾向

・領域ごとの傾向

領域ごとの平均正答率は、数と式ではA70%、B54%、図形ではA69%、B49%、関数ではA57%、B55%、資料の活用では、A63%、B40%である。数と式のA、図形のA、資料の活用Aにおいて全国を下回り、他は全国を上回った。いずれも全国との差は±5ポイントの範囲内である。

・設問ごとの傾向

Aでは全36問中17問で全国を上回り、Bでは全14問中12問で全国を上回った。全国との差が5ポイント以上である設問は以下の通りである。

- △B5(1) 団体料金が通常料金の何%引きになっているかを求める式を書く(21%、+5)
- ▼A1(2) 絶対値が6である数を書く(60%、-9)
- ▼A2(1) 数量の関係を表した不等式を書く(35%、-7)

○領域ごとの結果の概要

数と式

- ◇A3(2) 比例式 $x : 20 = 3 : 4$ を解く設問において、簡単な比例式を解くことについては、相当数の生徒ができています。(86%)
- ◆B2(2) 計算結果はいつでも4の倍数になる説明を完成する設問において、事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明することについては、課題がある。(42%)

図形

- ◇A5(3) 与えられた円柱の見取図からその円柱の投影図を選ぶ設問において、見取図、投影図から空間図形を読み取ることについては、相当数の生徒ができています。(83%)
- ◆B4(2) 平行四辺形 $ABCD$ の対角線 AC 上の点 E 、 F について取る位置を変えても、四角形 $EBFD$ は平行四辺形になることの証明を完成する設問において、発展的に考え、条件を変えた場合について証明の一部を書き直すことについては、課題がある。(44%)

関 数

- ◆ A 9 (3) 反比例のグラフから表を選ぶ設問において、グラフと表を関連付けて理解することには、課題がある。(49%)
- ◆ B 3 (3) 列車アが通ってから列車エが通るまでの時間をグラフから求める方法を説明する設問において、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することについては、課題がある。(14%)

資料の活用

- ◆ B 1 (3) 曲Fが選ばれやすいことの原因を確率を用いて説明する設問において、不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することについては、課題がある。(39%)
- ◆ B 5 (1) 団体料金が通常料金の何%引きになっているのかを求める式を書く設問において、与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することには、課題がある。(21%)

○授業改善に向けて

数 と 式

○ 事柄が成り立つ理由を、根拠を明確にして説明する活動の充実

事柄が一般的に成り立つ理由を説明するために、文字式や言葉を用いて根拠を明らかにできるように指導する必要がある。その際、不完全な表現を取り上げ、解決への見通しにそって、式を変形する場面を設定し、説明するための根拠を明らかにすることで、説明をより洗練されたものにしていく活動を取り入れることも大切である。

図 形

○ 問題の条件を変えて、発展的に考える活動の充実

証明を読み、結論を導くために欠かせない条件や性質を捉える場面を設定し、問題の条件を変えて、発展的に考えることができるように指導することが重要である。その際、条件を変える前の証明を振り返り、条件を変えた前の図と条件を変えた図を比較し、どちらの図においても成り立つ条件や成り立たない条件について確認する活動を取り入れることも大切である。

関 数

○ 問題解決の方法を、数学的な表現を用いて説明する活動の充実

問題解決の方法を、数学的な表現を用いて説明できるように指導をすることが重要である。その際、問題解決の方法に焦点を当て、何をどのように用いればよいかといった「用いるもの」と「用い方」を確認し、表、式、グラフの「用い方」について説明する場面を設定することが大切である。

資料の活用

○ 事象を数学的に解釈し、その根拠を数学的な表現を用いて説明する活動の充実

不確定な事象の起こりやすさについて判断し、その理由を説明できるようにするために、説明すべき事柄とその根拠の両方を示し、確率を用いて的確に説明する場面を設定することが重要である。その際、2つの事象の確率を求めたうえで、そのことを根拠として、説明する事柄(B)とその根拠(A)を明確に区別し、「(A)であるから、(B)である」のように表現させることが大切である。

中学校 理科

○調査問題の趣旨・内容

基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

- (例) ■ 濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘する。
■ アルミニウムを原子の記号で表す。

基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

- (例) ■ テレプロンプターのモデルの光の道筋を検討して改善し、適切な光の道筋を説明する。
■ 1つの要因を変えるとその他にも変わる可能性のある要因を指摘する。
■ 緊急地震速報を受け取ってからS波による揺れが始まるまでの時間が最も長い観測地点を指摘する。
■ 探究の過程を振り返り、新たな疑問をもち問題を見いだして探究を深めようとする。

○全体の傾向

・調査問題の趣旨・内容ごとの傾向

調査問題の趣旨・内容ごとの平均正答率は、知識・技能の問題では全国を下回り、活用に関する問題では上回った。また、活用に関する問題を4つの学習活動に分類した平均正答率では、「構想」「分析・解釈」「検討・改善」では全国を上回り、「適用」については下回った。いずれも全国との差は±5ポイントの範囲内である。

・設問ごとの傾向

「知識」に関する問題では全11問中4問で全国を上回り、「活用」に関する問題では全16問中12問で全国を上回った。全国との差が5ポイント以上である設問は以下の通りである。

- ▼5(1) 神経系の働きについての知識を身に付けており、感覚器と脳や脊髄をつなぐ「感覚神経」という名称を記述する。(51%、-6)
▼6(2) 実験結果の表から、必要な電流の値を抜き出し、オームの法則を使って、抵抗の値を求める。(46%、-6)

○調査問題の趣旨・内容ごとの結果の概要

知識・技能

- ◆2(2) 濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘することについては、課題がある。(45%)
◇8(1) アルミニウムの原子の記号の表し方についての知識を理解し、正しいものを選択することは、相当数の生徒ができています。(88%)
◇9(1) 植物の葉などから水蒸気が出る働きが蒸散であるという知識を理解し、その用語を選択することは、相当数の生徒ができています。(85%)

構想(観察・実験を計画すること)

- ◆4(2) 先哲の考えを手掛かりに、赤い炎とススの関係を調べる実験の計画において、条件制御の知識・技能を活用して、「変えない条件」を設定することに課題がある。(45%)
◆9(2) 植物を入れた容器の中の湿度が高くなる原因のうち、蒸散以外の要因を指摘し、問題解決の知識・技能を活用して、条件を制御した実験を計画することに課題がある。(22%)

分析・解釈

- ◇6(3) 豆電球と豆電球型のLEDの点灯の様子と結果の表から電力の数値を読み取り、分析して解釈し、規則性を見いだすことは、相当数の生徒ができています。(92%)

検討・改善

- ◆3(3) 台風の進路はどの条件に関係しているかという課題に正対した考察をするという視点で、観察・実験の結果に基づき、自分の考えや他者の考えを検討して改善することに課題がある。(53%)

- ◆ 4 (3) 物質を原子や分子のモデルで表すこと、化学変化の前後で原子の数は変化しないという知識を活用して、化学変化に関する原子や分子のモデルを検討して改善することに課題がある。(51%)

適用 (知識・技能を活用すること)

- ◇ 2 (1) 無脊椎動物と軟体動物の体のつくりの特徴に関する知識を活用できる。(85%)
- ◆ 3 (1) 日本全体から見た台風の進路予想図の広域の気象情報と、観測者が実際にいる、ある場所で捉える気象現象とを関連付け、空間と方位、時間の観点から正しく気象現象を予想することに課題がある。(36%)
- ◇ 7 (3) 初期微動継続時間の長さや震源からの距離の関係の知識を理解し、その説明に音の速さに関する知識を活用することは、相当数の生徒ができています。(95%)

○授業改善に向けて

中学校理科においては、「自然の事物・現象についての理解を深める」とともに、「科学的に探究する能力の基礎と態度を育てる」ために、自然の事物・現象の中に問題を見いだして課題を設定し、目的意識や見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈するなど、「科学的に探究する学習活動」を進めていくことが重要である。その際、次の4つの学習活動について、小学校で培っている「問題解決の能力」を踏まえて、中学校3年間を見通して指導を改善・充実することが大切である。

構想 (観察・実験を計画すること)

○自然の事物・現象から問題を見いだして課題を設定する学習活動の充実

教師が課題を提示するだけでなく、自然の事物・現象や身の回りの事象から問題を見だし、生徒自らが課題を設定して科学的に探究する学習活動を充実することが大切である。さらに、探究の過程を振り返り、新たな疑問を見出し、新たな課題として設定させることも大切である。

○予想や仮説を立て、検証するための観察・実験を計画する学習活動の充実

はじめに「変化すること(従属変数)」と「原因として考えられる要因」を全て挙げ、それらの妥当性を検討する。次にそれらの要因を「変える条件(独立変数)」と「変えない条件」に整理して、実験を計画する学習場面を設定することが考えられる。そして、課題解決の見通しが明確になる実験を計画させるように助言や問い返しを行うことが大切である。

分析して解釈すること

○観察・実験の結果を分析して解釈する学習活動の充実

観察・実験の結果をはじめに立てた予想や仮説に基づいて考察したり、今までに習得した知識・技能と関連付けて考えたりする視点を明示的に指導することが大切である。その際、生徒が小学校で培った問題解決の能力である比較や関連付けなどの考え方を活用できるように、助言や問い返しなどを行うことが大切である。

検討して改善すること

○自分の考えをもち、自分や他者の考えを検討して改善する学習活動の充実

予想や仮説を立てる場面では、既習や日常生活の経験を生かして、自分の考えをもてるようにする。次に自分の考えを、対話を通して生徒自身が検討して改善できるように、助言や問い返しをすることが大切である。また、考察の場面における話し合いでは、予想や仮説、課題に正対した考察になっているかなどの視点を明示することも大切である。

適用 (知識・技能を活用すること)

○日常生活や社会の特定の場面で、理科で学習した知識・技能を活用する学習活動の充実

単元の計画に当たっては、単元のはじめに位置付けて、単元を貫く課題を設定したり、単元の終わりに位置付けて、理解を深めたりすることが考えられる。指導に当たっては、はじめに個人で知識・技能を活用して考え、次にグループで互いの考えを共有することが大切である。また、生徒が説明する際には、根拠を示し、事実と考えを区別して表現することが大切である。

② 学習や生活習慣などに関する児童生徒質問紙調査

「児童生徒質問紙調査」の概要は以下に示すとおりであるが、経年変化を見るために、小数点以下第一位までの数値で示している。特に記載ある場合を除き、数値には「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合も含めている。

また、全国に対して±5ポイントの範囲は有意差が認められないとする範囲であり、ほぼ同程度として示す。

〈学習に対する興味や授業の理解度〉 理科

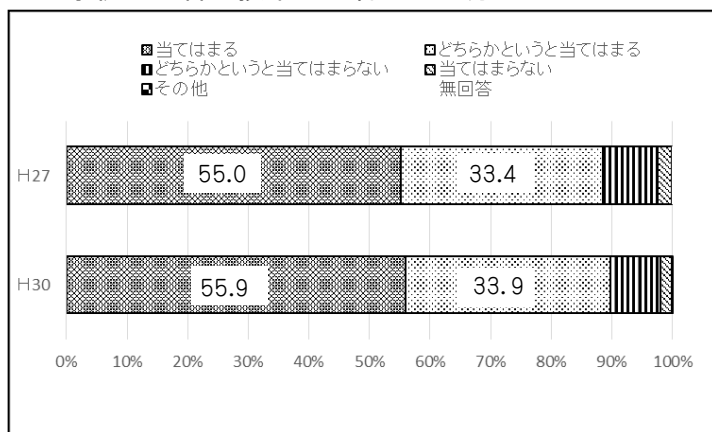
【小学校】

質問項目	H21	H27	H30	全国
理科の授業の内容がよく分かる。	—	88.4%	89.8%	89.4%
理科の勉強は好き。	—	82.8%	82.5%	83.5%
理科の勉強は大切だと思う。	—	86.4%	84.6%	85.4%
理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	—	72.5%	72.9%	72.9%

【中学校】

質問項目	H21	H27	H30	全国
理科の授業の内容がよく分かる。	—	65.0%	71.4%	70.0%
理科の勉強は好き。	—	59.7%	62.5%	62.9%
理科の勉強は大切だと思う。	—	64.9%	68.0%	70.6%
理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	—	48.7%	51.0%	55.7%

小学校 理科の授業の内容がよく分かる



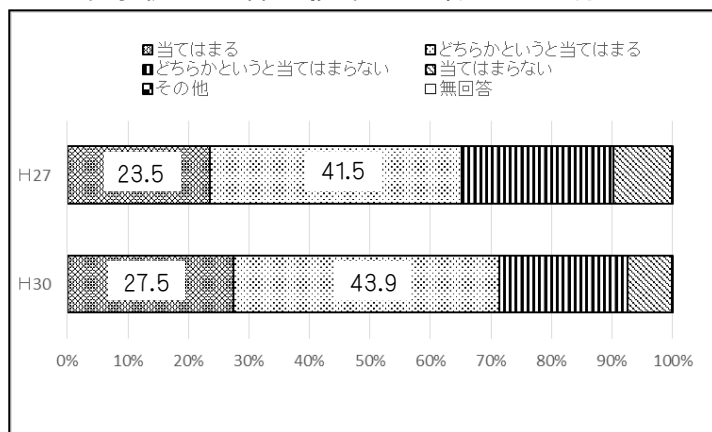
全国と比較すると、これらの質問項目では、小学校、中学校ともに、「理科の授業がよく分かる」では、全国を上回り、それ以外の項目では全国を下回った。いずれも全国との差は±5ポイントの範囲内である。

平成27年度と比較すると、中学校では、「理科の授業の内容がよく分かる」で6.4ポイント、また、「好き」「大切」「役立つ」でもそれぞれ上昇が見られた。さらに、「自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てる」で7.3ポイント、「観察や実験の結果を基に考察している」で6.8ポイント、「観察や実験の進め方や考え方を間違えていないか振り返る」で5.5ポイントの上昇も見られた。

小学校では「理科の授業の内容がよく分かる」「理科の授業は好き」では、高くなったが、「大切」「役立つ」については低くなった。

今後も「分かる授業」の実現に向けて指導の工夫に取り組むとともに、教科の有用感や学ぶことが大切だと感じるような授業改善の必要がある。

中学校 理科の授業の内容がよく分かる



〈学習に対する関心・意欲・態度〉

算数・数学

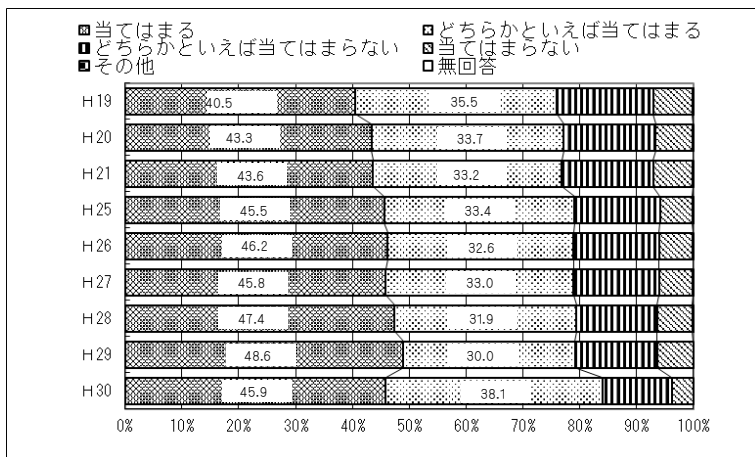
【小学校】

質問項目	H21	H29	H30	全国
算数の授業の内容がよく分かる。	78.9%	78.6%	84.0%	83.4%
算数の勉強は好き。	63.3%	65.5%	65.3%	64.0%
算数の勉強は大切だと思う。	91.9%	91.7%	93.0%	92.1%
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	86.1%	88.3%	90.6%	90.3%

【中学校】

質問項目	H21	H29	H30	全国
数学の授業の内容がよく分かる。	62.8%	72.5%	74.2%	71.0%
数学の勉強は好き。	51.2%	59.2%	56.5%	53.9%
数学の勉強は大切だと思う。	73.1%	80.2%	82.5%	83.6%
数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	59.1%	68.6%	68.9%	72.9%
数学ができるようになりたいと思う。	90.3%	91.4%	92.3%	92.5%

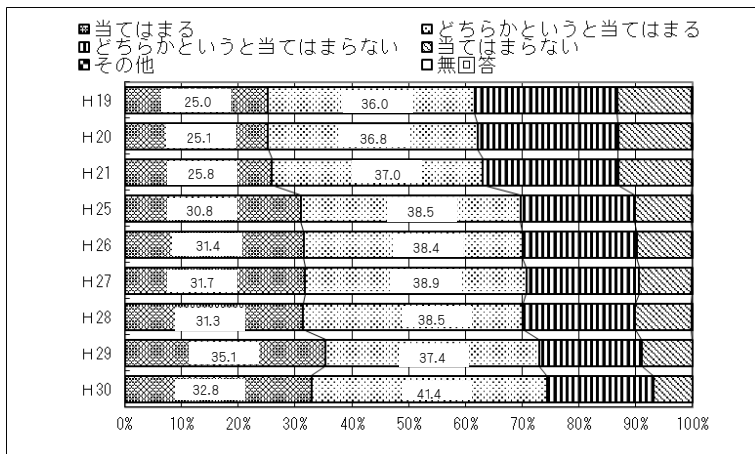
小学校 算数の授業の内容がよく分かる



全国と比較すると、これらの質問項目では、小学校では、すべての項目で全国を上回り、中学校では、「数学の授業の内容がよく分かる」、「数学の勉強は好き」、において全国を上回った。いずれも全国との差は±5ポイントの範囲内である。

平成21年度と比較すると、中学校では、「数学の授業の内容がよく分かる」において11.4ポイント、「数学の勉強は好き。」において5.3ポイント、「数学の勉強は大切だと思う。」において9.4ポイント、「社会にでたときに役に立つ。」において9.8ポイント高くなった。小学校では「授業の内容がよく分かる。」において、5.1ポイント高くなった。特に平成29年度との比較では、小学校の「算数の授業の内容がよく分かる」において5.4ポイント高くなった。

中学校 数学の授業の内容がよく分かる



今後とも、小中学校ともに一人一人が「内容がよく分かる」授業づくりに継続して取り組むとともに、中学校では「授業で学習したことが将来、社会に出たときに役に立つ」と思えるような、授業づくりを進めていく必要がある。

《規範意識、自己有用感等》

【小学校】

質問項目	H21	H29	H30	全国
自分にはよいところがあると思う。	70.5%	79.9%	87.3%	84.0%
将来の夢を持っている。	83.0%	83.9%	84.6%	85.1%
学校の規則を守っている。	81.9%	92.5%	91.4%	89.5%
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。	92.8%	95.7%	96.9%	96.8%
人の役になりたいと思う。	90.3%	92.6%	95.4%	95.2%

【中学校】

質問項目	H21	H29	H30	全国
自分にはよいところがあると思う。	55.9%	70.4%	80.0%	78.8%
将来の夢を持っている。	68.4%	68.4%	70.3%	72.4%
学校の規則を守っている。	83.9%	93.9%	93.6%	95.1%
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。	86.0%	91.5%	94.1%	95.5%
人の役になりたいと思う。	87.4%	90.9%	93.7%	94.7%

規範意識、自己有用感等のこれらの質問項目について全国と比較するとほぼ同程度である。

平成 29 年度と比較すると、「自分にはよいところがある」と回答した児童生徒は、小学校は 7.4 ポイント、中学校は 9.6 ポイント高くなっている。

平成 21 年度と比較するとすべての質問項目において増加しており、特に「自分にはよいところがある」と回答した児童生徒は、小学校で 16.8 ポイント高くなり、中学校では 24.1 ポイント高くなった。また「学校の規則を守っている」についても小学校は 9.5 ポイント、中学校は 9.7 ポイント高くなった。

自己有用感については、平成 21 年度以降、全国と比較すると低い傾向が見られていたが、近年は数値が上昇し、今年度については、昨年度を上回り、全国との比較でも上回った。

学校生活の中で互いを認め合う活動や、子どもたちが創意工夫できる係活動、班活動等が継続的に行われ、自分の良さや達成感、充実感を味わう機会があることが、このような変化の背景として考えられる。

しかし「将来の夢をもっている」と回答した児童生徒は、経年の比較では増加傾向にあるものの、大きな変化はなく、小学校は 84.6%、中学校は 70.3%に留まっている。

今後は自分のよさを自覚することを通して、さらに自分自身を見つめ、自分の適性や将来の生き方についても考えられる活動を継続していくことが大切である。

《学習習慣等》

【小学校】

質問項目	H21	H29	H30	全国
家で、自分で計画を立てて勉強している。	54.4%	62.6%	66.4%	67.6%
★家で、学校の授業の予習・復習をしている	—	—	53.3%	62.6%
●予習・復習やテスト勉強などの自学自習において教科書を使いながら学習している	—	H 28 55.0%	62.7%	69.9%
家で、学校の宿題をしている。	93.4%	96.3%	97.2%	97.1%
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たり1時間以上勉強をする。	57.0%	61.2%	63.2%	66.1%

【中学校】

質問項目	H21	H29	H30	全国
家で、自分で計画を立てて勉強している。	36.1%	50.3%	49.1%	52.1%
★家で、学校の授業の予習・復習をしている	—	—	51.1%	55.2%
●予習・復習やテスト勉強などの自学自習において教科書を使いながら学習している	—	H 28 67.1%	71.3%	71.3%
家で、学校の宿題をしている。	76.0%	81.1%	86.9%	91.6%
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たり1時間以上勉強をする。	63.7%	71.1%	72.5%	70.6%

学習習慣等のこれらの質問項目について全国と比較すると、「家で、学校の授業の予習・復習をしている」（新設項目）と回答した児童生徒は、小学校は9.3ポイント、「自学自習において教科書を使いながら学習している」7.2ポイント上回り、その他の質問項目ではほぼ同程度であった。中学校においてはすべての質問項目でほぼ同程度であった。

平成21年と比較すると、小学校では「家で、自分で計画を立てて勉強している」において、12ポイント、「学校の授業時間以外に1時間以上勉強している」において6.2ポイント高くなった。中学校では、「家で、自分で計画を立てて勉強している」において13.0ポイント、「家で学校の宿題をしている」において10.9ポイント、「学校の授業時間以外に1時間以上勉強している」において8.8ポイント高くなっている。

学習の習慣が定着してきていると捉えられるが、小学校においては、「家で、学校の授業の予習・復習をしている」と回答した児童が全国と比較すると9.3ポイント低く、中学校においては「自分で計画を立てて勉強している」と回答している生徒が約5割と低い。

これらの結果から、子どもたちの興味・関心を高め、子どもたちが自ら予習や復習、そして、計画を立てて学習を進めることにつながる授業づくりを進める必要がある。

《主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導改善に関する取組状況等》

【小学校】

質問項目	H21	H29	H30	全国
★5年生までに受けた授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う。	—	—	80.7%	76.7%
5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う。	—	70.9%	66.6%	61.0%
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。	—	70.9%	80.5%	77.7%

【中学校】

質問項目	H21	H29	H30	全国
★1, 2年生までに受けた授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う。	—	—	74.7%	73.8%
1, 2年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う。	—	64.8%	58.5%	53.8%
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。	—	68.5%	76.7%	76.3%

★新規項目

「自分の考えがうまく伝わるよう資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた」と回答した児童生徒は、全国と比較すると、小学校は5.6ポイント上回っており、中学校は同程度であった。

平成29年度と比較すると「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と回答した児童生徒は、小学校は9.6ポイント、中学校は8.2ポイント高くなった。「自分の考えがうまく伝わるよう資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた」と回答した児童生徒は、中学校では6.3ポイント低くなった。

各教科等で、課題の解決に向けて話し合ったり、文章に書いて発表したりする機会を大切に、対話的な学びを通して多様な考えを受け止め、自分の考えを広げたり、深めていくことが大切である。その中で、自分の考えを発表する機会では、より相手に伝わるよう、資料などを有効に活用することや、より分かりやすく伝える工夫ができるよう、今後も引き続き、言語活動を充実させていくことが必要である。

〈基本的な生活習慣等〉

【小学校】

質問項目	H21	H29	H30	全国
朝食を毎日食べている。	95.1%	94.5%	93.8%	94.5%
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	70.2%	78.6%	76.5%	77.0%
毎日、同じくらいの時刻に起きている。	87.1%	89.5%	87.7%	88.8%
家の人と学校での出来事について話をする。	68.5%	78.1%	81.6%	80.5%

【中学校】

質問項目	H21	H29	H30	全国
朝食を毎日食べている。	89.9%	90.8%	88.7%	91.9%
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	64.8%	73.4%	71.6%	74.2%
毎日、同じくらいの時刻に起きている。	88.6%	91.2%	88.6%	90.3%
家の人と学校での出来事について話をする。	56.7%	70.8%	73.2%	76.0%

基本的な生活習慣のこれらの質問項目について全国と比較すると、小学校、中学校ともにほぼ同程度である。

平成21年度と比較すると、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と回答した児童生徒は、小学校は6.3ポイント、中学校は6.8ポイント高くなっている。「家の人と学校での出来事について話をする」と回答した児童生徒の割合は、小学校は13.1ポイント、中学校は16.5ポイント高くなっている。

学校における児童生徒の様子についての各家庭の関心の高さを生かし、児童生徒の基本的な生活習慣の確立に向け、さらに、家庭との連携を大切にする必要がある。

〈地域や社会に関わる活動の実施状況等〉

【小学校】

質問項目	H21	H29	H30	全国
今住んでいる地域の行事に参加している。	45.8%	47.4%	52.5%	62.7%
地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある。	63.2%	64.4%	67.0%	63.8%

【中学校】

質問項目	H21	H29	H30	全国
今住んでいる地域の行事に参加している。	27.9%	31.9%	38.6%	45.6%
地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある。	52.3%	56.2%	59.1%	59.3%

「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した児童生徒は、全国と比較すると、小学校は10.2ポイント、中学校は7.0ポイント下回っている。

しかし平成29年度と比較すると、同じ質問項目では小学校は5.1ポイント、中学校は6.7ポイント高くなっている。

また平成21年度と比較すると、「地域や社会に関わる活動の実施状況等」のこれらの質問項目はともに数値が上昇している。

地域との連携を大切にすることや、「キャリア在り方生き方教育」の取組等を通じて、地域への興味・関心を高め、理解をより深めることが大切である。